

千葉県教員研修実施

8月の夏季休業中に、下記の通り本学にて各教員研修を実施致しました。

① 8月1日(木)

千葉県教育センター主催

担当: 田中先生

「小学校英語の最新動向と、読み書きの指導方法について学ぶ」

参加者: 千葉市内小・中・特別支援学校教員

② 8月20日(火)

千葉市教育研究会英語部会 8月例会

担当: 河合先生

「小学校英語教科化における小中接続の重要性」
参加者: 同部会所属小・中学校教員

今回の研修はいよいよ来年度に控えた、小学校高学年での「英語」教科化に新たに追加される「読み」と「書き」の指導法について、理論と実践を交えた研修が実施されました。ご参加された先生方は、活気に満ちていて、小学校英語の指導力向上を目指して、真摯に取り組んでいらつしました。本センターでは、自治体との依頼を受け、各ご要望に適した研修の実施を行っております。



上: 8月1日の様子(田中先生)
下: 8月20日の様子(河合先生)

9月のイベント (本学学生対象)

海外・沖縄実習 第2回 応募者対象説明会

2019年9月18日(水) 12:20 - 於 1-114

先輩学生による体験談・資料回覧・個別相談
昼食持込可

平成31年度春休み(2020年2・3月予定)に実施される、「児童英語教育実習(沖縄)」ならびに「児童英語海外実習」の応募者対象説明会を実施します。実習への参加条件は各実習により異なります。詳細は、Campus webのお知らせまたはイベントを参照してください。わからない点等がありました際には、お気軽にCTECまでお問い合わせください。

※7月に開催された説明会に参加した方も参加していない方も、今回は応募方法の説明がありますので、出席してください。

応募締切 ~23日(月)午前9時

(担当: 佐々木)



左: 海外実習(於 トーランス、米)で読み聞かせをしている参加学生
右: 沖縄実習でストーリーテリングをしている参加学生

CTEC 「学内支援」

CTECでは、主に児童英語教員養成課程を専攻している学生を対象に、下記の支援を行っております。

1. 児童英語関連書籍・教材の閲覧・貸出
2. 児童英語関連科目の授業支援
3. 児童英語教室を使つての活動・教材作成



CTCTC内保管教材一例

上記1では、図書・CD等の貸出の他、教材作成に必要な画用紙等の材料や、文具の貸出も行っております。貸出に関しては、いくつかのルールがありますので、借用希望の方は在室している教職員へご相談ください。

2では、学内で実施される授業の他、実習科目等も対象に、教材貸出・担当教員による事前・中間・事後の指導を行っております。

履修・課程専攻登録

12日(木)から、いよいよ後期の授業が開始となります。

【web履修登録期間】 9/12(木)～9/18(水)

【web履修修正・中止期間】 9/30(月)～10/1(火)

尚、「児童英語教員養成課程」の登録は前期のみCampus web上にて登録可能ですので、4年生で未申請の方は忘れずに窓口にて申請するようにしてください。

履修済・履修中の科目によっては、Web上で課程の登録ができない場合もあります。教務課窓口にて登録の申請ができますので、期間中に申請してください。

子どもが英語を「読める」とは？ #1



子どもが「英語を読める」というのは、どういうことを意味するのでしょうか。例えば、dogという単語を見て発音できたら「読める」と言えるでしょうか。子どもは一見読めているように見えても、単語の形を見て言っていたり、また絵本などをスラスラ読んでいようでも、話を記憶して言っているだけの場合があります。それでは本当の意味で「英語を読める」とは言えません。英語を「読める」ようになるためには、単語内の全ての文字と音の特定ができなくてはなりません。つまり、文字の形を識別でき、その文字の音素*を認識し、単語1つ1つの文字と音素を繋げることができて、本当に英語を「読める」と言うことができます。

それでは、「読める」ようにするためには、どうしたらよいでしょうか。それには、例にあるように、

- ① まずは、アルファベットの文字の形を全て識別できるようにすることが必要です。fはtと形が似ているけれども、一方は /ef/、もう一方は、/ti:/と違う文字であることを知らなければなりません。第1段階では、アルファベットの形と「名前」をしっかりと覚える必要があります。
- ② 次に、それぞれのアルファベットの文字には、「音」があることを知る事が重要です。fの音は /f/ であって、/h/ではありません。アルファベットの文字全ての音(音素)を正確に認識できるようにすることが重要です。

- ③ そして、それらの「音」をつなぎ合わせて読むことができれば、英語を「読める」ということになります。

子どもたちに英語の「読み」を指導する場合は、①②③の順番で指導していきます。ちなみに、文字の音を正確に認識すること、またその能力があることを「音素認識能力」と言います。小学校3・4年生の段階で音声中心に英語を学び、5・6年生でそれらの音を文字と結び付けて、少しずつ読めるようにするというのが、文部科学省の目標です。「音素認識能力」を獲得することは、多くの研究で、「読み」「書き」能力の基本として重要であることがわかっています。

例: fox

- | | |
|--|-----------|
| ① fの形を識別 | 【文字の形】 |
| ② /f/の音であることを認識 | 【音素認識能力】 |
| ③ fox - /f/ /a/ /k/ /s/ - /faks/ と読むことができる | 【音・文字の関係】 |

英語を「読める」ようになる練習について等、次号以降お伝えします。

*音素: それ以上区切ることのできない音声の最小単位。

【略歴】
上智大学卒業後、上智大学大学院よりMA(修士号)、カリフォルニア大学サンタバーバラ校よりMA(修士号)、同大学よりPh.D.(博士号)を取得。教育学博士。専門は、教育学、応用言語学。本学では、「English for Academic Purposes」、「英語専門講義」、「認知発達と英語教育」、「研究演習(ゼミ)」の他、各児童英語関連の実習指導を担当。大学院(MA TESOLプログラム)では、「Principles of Teaching English to Young Learners」を担当。
千葉県船橋市英語教育推進委員会委員
代表。神田外語キッズクラブ顧問。
著書に「TOEFLテスト対策書(旺文社、アルク)」、「英語のプレゼンテーション」(研究社)、「小学生に英語の読み書きをどう教えたらいかが」(研究社)など。

【ご挨拶】
みなさん、こんにちは。
私が担当している「認知発達と英語教育」では、子どもの認知と言語がどのように発達するかを学びます。授業では、認知発達の観点から、子どもが概念を形成していく過程、言語の獲得、脳の構造と仕組み、発達障害、心の理論、ピアジェの発達理論や、ヴィゴツキーの社会文化理論等を扱います。このような知識を基に、英語指導法や技術を考察します。
子どもの英語教育に興味のある方は、是非履修してください。お待ちしております。



田中 真紀子
(Makiko TANAKA)
英米語学科・教授
本センター・センター長

CTEC教職員紹介 ①
センター長・田中 真紀子

9月 CTEC 開室予定 (2019年8月30日時点)

(月)・(水)～(金) 9:00-17:00 (火) 9:00-14:00 (土)・(日)閉室

【開室時間変更日】

6日(金) 閉室
11日(水) 閉室
18日(水) お昼休み・3限 閉室
24日(火) ～2限
26日(木) お昼休み・3限 閉室

【CTEC関連スケジュール】

- 11日(水) 3・4限 於 1-108
船橋実習 事前指導
- 18日(水) 12:20-
於 1-114
海外・沖縄実習 説明会
- 18日(水) 3限 於 1-108
船橋実習 事前指導

開室予定は変更になる場合があります。CTECドア前の最新版を参照してください。

For more information

【TEL】 043-273-1579
【E-mail】 ctec@ml.kuis.ac.jp
【URL】 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/labo/ctec/> 編集: 佐々木

